

中学校知的障がい特別支援 英語科学習指導案

日 時 平成21年11月19日(木)
 対 象 2年男子2名
 3年男子1名
 場 所 ○○支援学級
 指導者 T1
 T2 (NS)

1. 単元名 「Let's draw ! Parts of the face.」

2. 単元について

(1) 生徒観

今年度の在籍は、2年生1名(男子)知的学級1名である。2年生のAさんは、小学校6年間を通常学級で過ごし、中学校への入学を機に特別支援学級に在籍した。小学校では4年生の2学期頃から国語・算数の個別指導を受けてきている。できるだけ普通学級の生徒との生活を多くさせて欲しいとのご両親の願いから本人・家族と相談をして学習の方法を決めている。1年生ではマンツーマンの授業がほとんどであったが2年生からは協力学級の生徒Bさんが数学と英語を支援学級でAさんと一緒に学習している。2人は同じ部活動でお互いを理解しており、仲の良いときもあるがお互いのやりとりは決して心地よいものばかりではなく、心ない言動に一喜一憂の毎日である。ただ、そういう中にもさまざまな学びがあるととらえ、コミュニケーションを大切に、できるだけ多くの人とつながることに意味があると考えている。3年生のCさんは普段は別室で授業をしているが英語の時間は時々一緒に勉強している。同学年の2人の中に3年生が入ると微妙な人間関係ができるが、生きていくために様々な場面を経験する方が良くととらえる。

しかし、生徒のコミュニケーション能力は年々低くなっている感じがしている。情報が発達し、単語はそれなりに知っているがつきあいや、やりとりの中で使いこなせていないという感じである。それは、障害のあるなしにかかわらず、社会全体がそのような流れになっていると感じるからである。日常生活における日本語を用いたコミュニケーション全体についてこのような状態なので、まして英語については、英語を使いこなすという事は難しい。しかし、生徒はNSのコリン先生と、ゲームなどの学習活動を通して英語に親しんでおり、心が解放される学習として英語学習に対する興味関心が高い。

さらに、コミュニケーションは非言語のやりとりが大半を占めるといわれているが、在籍する生徒は、自分から話しかけたり、話しかけられたことに対応することに苦手意識をもっており、さらに表情豊かに対応することにも慣れていない。したがって、英語の学習を行うことは、言葉を使いこなすということのみを目標とするのではなく、どのようにして相手とつながっていくことができるのか、言語を介さないコミュニケーションについての学習を大切にしたい。

日常の生徒のコミュニケーションを中心とした生活の様子については以下の通りである。

生徒名	学年・性	コミュニケーションの様子
Aさん	中2・男 知的	社会経験は多くはないが、生活能力はあり、周りの状況を見ながら中学校生活に適應している。他と積極的に関わることあまり上手ではない。自分が経験したことを順序よく相手に伝えることが難しいときがある。同級生同士で単語で乱暴な言葉を使うときがある
Bさん	中2・男	会話の内容は幼いけれども積極的にコミュニケーションを取ることができる。おしゃべりが上手である。会話に不自由はなく思ったことを思ったように話すことができるが、話が大きくなりすぎるときがある。4人兄弟の長男で期待が大きい分、勉強や行動に自信がない面もみられる。
Cさん	中3・男	穏やかな話し方である。自己中心的な話の内容が多く、ゲームのことや鉱石など得意分野になると、時間を忘れて話をする。同級生とは同じレベルで話せる内容が少なく、話のできる友人が限られている。独特な自分の世界があり、そのモードになると他を受け付けなときがある。自分自身の気持ちをうまく表現できない。

(2) 英語学習について

コミュニケーションの 60%は言語以外の要素であるとよく言われる。昔から、「目は口ほどにものを言い」と言われるが、目はもちろんのこと、手を使ったジェスチャー、顔の表情、全身の使い方、声の大きさ、調子（トーン、メロディ）などが人間の感情を伝える。そこで、英語学習を通して、具体的にボディランゲージの要素を練習させたり、表情豊かに話す、声の調子を内容と併せて話す、人前に立ったら笑顔を忘れない等の指導をしていきたい。

非言語のコミュニケーションは、しばしば「態度」という言葉でくくられることが多いが、「態度が悪い」とひとまとめにするのではなく、日常言語のコミュニケーションの要素を丁寧に分析し、どの部分ができていないかをとらえ指導していくことが「態度」をよくしていくことだと考える。英語の学習を通して、「積極的にコミュニケーションをする」「細かい部分を含めて態度を改める」「相手を尊重し、不快にさせないマナーを学ぶ」ということを英語の学習を通して目指したいことである。

(3) 指導観

英語を学ぶと言うことは世界に向かって開かれた窓の外を意識しながら学習することだと考えている。その窓から大きな世界が見え、ちょっと違った風も吹いてくるかもしれない。違う香りもしてくるかも知れない。そのことが、最終的には国際人を養成することにつながり、それが正しい国際理解につながっていくと考える。しかし、そのような大きな目標は具体的には見えないし、もしかしたら英語を使わないで生活することの方が多いかも知れない。よって、指導する際には、窓の向こうの世界に興味を持たせながら、日々の指導の中では、将来地域社会の一員として生活していくときに、誰にでも対応できるマナーを身につけさせることに努力したい。マナーの多くは世界中の人々に共通なことで、人間として当然守らなければならないことの集大成である。人の集まる場所にマナーがなければ集団での行動ができないことはいままでもない。マナーとして確立していきたいこととして次の2点をあげる。

①聞くこと

聞くというのは他者を尊重することである。日常生活の中でも、教師の言うことばかりではなく、友達の言うこともよく聞くということが大切である。聞き方にもいろいろあり、聞いたら反応を示す、褒める、感動する、拍手をする、質問をするという積極的な聞き方を指導したい。

②発表すること

人の前に立って発表するためには

- ・立ち方や、聞く人を見たり、見回したりする
- ・声の大きさ、はっきりと発音すること
- ・自信をもって聞く人の立場になって少しオーバーに演じる度胸をもつ
- ・人に伝えたいという気持ちを強くもち、それを顔の表情やイントネーションに反映させる。

英語の学習を通してコミュニケーションを教えること、ととらえて英語の学習に取り組みせたい。

3. 単元の目標

- (1) 英語に親しみ、意欲的に学習に取り組むことができる。
- (2) 英語を聞いて、反応することができる。
- (3) 英語を聞いて、指示の通りに活動することができる。
- (4) 簡単な英語を話すことができる。
- (5) アルファベットや単語を書くことができる。

4. 活動計画 (全12時間・・・本時9時間目) 別紙参照

5. 生徒の実態と期待する姿とその手だて

生徒名	実 態	期待する姿	手だて
Aさん 中2・男 知的	英語に対する苦手意識が強く、意欲的に学習に取り組むことが難しい。学習の経験を積むことで慣れて様々な学習活動に取り組むことができている。	表情よく受け答えをする。生き生きとゲームを楽しむ。簡単な英語を視写する。簡単な会話を楽しむ。英語で自分や家族の紹介ができる。	積極的に取り組んだことを即座に評価し、自信をもたせる。感じよくコミュニケーションすることの大切さを伝え自分で気をつけて活動するように常にフィードバックさせる。
Bさん 中2・男	英語を話すことに対する興味関心は高いが、アルファベットをしっかりと覚えていない。間違った単語を書いても平気でいたりする。	堅くならず、リラックスして英語学習に取り組む。単語を使って会話をする。簡単な英語を視写する。英語で自分や家族の紹介ができる。	新しい取り組みに対して躊躇するので、思い切って学習に取り組むことができるように、励ます。積極的に取り組んだことを即座に評価し、自信をもたせる。
Cさん 中3・男	理解力は高く、しっかりと取り組もうとする。こだわりがあって、融通が利かないことが時々ある。調子がよいとリラックスした明るい雰囲気を作り、英語の学習に取り組みやすくしてくれる。	簡単な会話を楽しむ。英語で自分や家族のことを紹介できる。	自分から進んで、活動に取り組むことができる場面を設定し、できるだけ自分の力で活動しようとする気持ちを育てる。

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 新しい課題の「Let's draw ! Parts of the face .」を指示に従って意欲的に取り組む。
- ② 声の調子や表情に気を配りながら話すことが相手に伝わるようにする。

(2) 本時について

本時の目標を達成するための基礎的・基本的事項は、既修の顔に関するノーズ、アイズ、マウスといった単語であり、これらを活用する学習活動とは指示に従って意欲的に絵に表現する活動である。

指導にあたっては次のような工夫をした。

- ・既習事項の単語については繰り返し練習を行った。
- ・個人用のホワイトボードを使って単語や簡単な絵を描く練習も行った。
- ・3人の人間関係がうまく取れるようにカードゲームなどを繰り返して行った。

コリン先生が来校した英語の学習の時間は、基本的にはNSのコリン先生とTT指導に当たり、ネイティブの発音を教えてもらいながら、学習をすすめている。また、指導の流れも1時間毎に変えるのではなく、導入段階でジェスチャー、カードゲームなど、これまでの学習の課題から、選択して活動し、展開では新しい課題や学んで欲しい事柄など、本時のねらいにそった内容に取り組む。このような授業の流れを作り、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。本時も日常の授業の形態を踏襲して指導にあたりたい。

(3) 個人の目標

生徒名	学年・性	本時の目標
Aさん	中2・男 知的	・自己紹介をゆっくり、はっきりと行う。 ・英語の指示に従って表情豊かに受け答えを行う。
Bさん	中2・男	・自己紹介に意欲的に挑戦する。 ・指示に従って明るく意欲的に活動する。
Cさん	中3・男	・自己紹介に挑戦する。 ・指示に従って明るく活動する。

